

# ひかりのこ

3月園便り

聖ミカエル幼稚園  
2016年2月19日

月主題：おおきくなった

「親も子も育ちあう」

1月29日(金)の午前に、聖ミカエル教会の礼拝堂で、子ども達を対象にした音楽会が開かれました。札幌で活躍されている、チェロ奏者の藤田淳子さん、フルート奏者の大島さゆりさん、ピアノ奏者の西條 暁さんが来てくださり、子ども達の好きなディズニーの曲や、聞き覚えのある短い曲を数曲演奏してくださいました。楽器の説明もわかりやすくして下さり、子ども達は目を輝かせてお話を聞いていました。

プログラムの途中、絵本の読み聞かせとのコラボがあり、絵本サークルの代表のお母さんが『スイミー』を、今城先生が『ねこのピート』を、植木先生が『おかあさんのいのり』を読み聞かせしました。本番に向けて、何度か奏者と打ち合わせをし、このページは楽しそうな曲、この場面は迫力のある曲、読むタイミングは、と綿密に内容を練っていきました。本番はとても良い出来で、子ども達は十分音楽と絵本を楽しみました。

2月4日(木)には、お母さん方の絵本サークルが、ブラックライトを使って、光る絵本の読み聞かせをしてくださいました。子ども達は大喜び。周りが暗いので、だれか泣いちゃうかなあ、と心配しましたが年少さんもとても喜んで絵本に集中していました。

2月15日には、ゴスペルサークルのお母さん方が、月曜の礼拝の後に、礼拝堂で『世界が一つになるまで』をお母さん方だけで、『いっしょに歌おう』を子ども達と一緒に歌ってくださいました。年長のお母さん方は、子ども達と歌えるのもこれが最後。「泣かないように」頑張っているけど、涙が止まりません。聞いている私も、もう、1曲目から泣きながら聞いていました。

ひとりひとりのお母さん方、特に年長さんのお母さん方を見ながら、「本当にお世話になったなあ。」「お母さん方も子ども達と一緒に幼稚園での生活を頑張ったなあ。」としみじみ思いました。

一人目のお子さんが年少さんの時は、お母さんになってまだたったの3年。子育ての不安もあるし、自分が母としての立場にいることにも、まだまだ不安があったことでしょう。でも、お父さん、お母さん同士助け合って、私たち幼稚園の職員にいろいろ聞きながら、本当に成長されたと思います。年少さんの3学期になると、お子さんもしっかり幼稚園に慣れてきますが、お母さん方もどっしりしてき

ます。そして、また、来年度入ってくる新米お母さん方に優しいお声をかけてくださることでしょ。

親も子も育ちあう。この幼稚園の本当に良い雰囲気です。園長がお願いしたのでもなく、お父さん、お母さん方で作りあげた「文化」であると思います。

父の会も毎回とても素敵な雰囲気です、私は大好きです。この「文化」が、これからも続いてほしいと願っています。

園長 渡部良子

## キリスト教保育

### 「普通の生活」

東日本大震災からもうすぐ5年になります。この度はどうしてもこのことをお伝えしたいと思いました。

被災地で支援に係わった者に共通する思いは、たとえ十分なお手伝いができなくても、せめて自分が見聞きしたことは記憶し、伝え続けたいということで、私も同様です。

岩手県釜石市には聖公会の教会が運営する保育園があり、津波の被害は免れたものの、園児と家族、職員も、一言では語れない苦難を経験しました。震災後から不眠不休で働いた園長先生が、ふと「普通の生活にもどりたい」と本音を漏らすことがありました。もちろん、それはあり得ないし、亡くなった方々のことを思えば、贅沢な悩みかもしれない。しかし私は、「普通の生活」に、とても共感しました。大きな決断を迫られたり、大切なものを失ったり、周囲の人の悲しい話しを毎日のように聞くような生活ではない「普通の生活」こそが、ただ憧れなのです。普通の生活を失い、いわゆる「震災別居」、「震災離婚」を余儀なくされたご家族も数えきれません。新居を流され、仮設暮らしが続いた保育士の先生も、「生活は少し落ち着いても、これからの不安に押しつぶされそうになる。得体の知れない不安が心に広がってくる」といいます。離れた所に住む私たちの想像では、これだけ時間が経てば、ある程度の生活が回復されたのではないかという印象を持ってしまいましたが、現実ほど遠いのです。いまこの時、同じ国の中で、普通の生活に憧れて過ごしている多くの人々がおられることを、私たちはどうとらえたいのでしょうか。

よく言われるように、私たちに必要なのは想像力なのかも知れません。震災から5年が経ち、被災の出来事は私たちの記憶の中で過去のものになっていきます。しかし、普通の生活を願いながら、これからも不安とともに生きなければならない人々のことを忘れないこと。想像力を働かせること。せめてそこにだけは踏み留まっていたい。そして、可能な限り応援し続けたいと思うのです。

チャプレン 下澤 昌